

浪江町から福島市に避難している方の
やりきれない思い...
ちょっとだけ聞いて下さい

ひさくんの 見て歩き

Aさん（男性40代）
仮設住宅に母と二人で住んでいる。避難してきてそのまますたして、今も働いてません。母は花などが好きなのだが、仮設住宅ではちょっとしか置けない。それで福島県の借上げ住宅として貸家に移りたかったが、一度仮設住宅に入ってしまうと今は県で借上げてくれない。一般で借りて東京電力に損害賠償請求しようとしたが、不動産屋で無職だと大家から断られるよと言われた。浪江町の自宅は町の中だった。買ってくれる人はいないかな？

Bさん（女性40代）
家族で県の借上げ住宅に住んでいる。福島県では6万円までしか家賃が出ないので差額の2万円は自分で支払っている。東京電力には前から家賃の差額は補償すると言われていた。今回、東京電力に損害賠償の包括請求をしたところ、この差額は支払えませんと言われた。支払いを受けたいのなら、契約書を書き換えて持ってきてくださいと言われた。今更そんなこと出来るわけがないでしょ。

Cさん（男性60代）
浪江町の自宅は3年前に新築したばかりだった。お風呂もキッチンも最新モデルだったんだ。むこうは家族みんなで住んでいる家が多いから新築するときは結構立派に造る家が多かったな。福島市に避難してきてみんなバラバラになって住んでいるよ。浪江の自宅にもたまに行くけれども、もう面影もない。ネズミがすごくて。荒れ放題。イノシシとか、草もすごい。除染するからというが、自宅から20mの範囲まで。また山から放射能が降りてきて結局同じだよ。何の効果もないと思うよ。

Dさん（50代）
浪江町の自宅のあたりはインフラが地震でやられてそのまま。電気も水道も来ていない。復旧させるというけれども、上水道の水に放射能があったら結局住めないじゃない。ダムの水は全部ダメでしょ。東京電力は地震で壊れた住宅は補償しませんと言っている。でも、そこに住めなくしたのは一体どこのどいつなの？わたしの家をかえして！



食カラダ のぐるり

体が乾燥する季節です。喉、肺が痛みやすくなることに留意しながら献立をたてましょう。旬のの実もの、梨や栗が体に潤いを与えます。(港屋漢方堂取材)簡単にできる栗のレシピをご紹介します！

＜栗の醤油炒り煮ー材料＞
生栗約20個、油大さじ2、水3/4カップ、醤油大さじ1と1/2
①栗の皮をむく。
②油を熱し栗を中強火でさっと炒め、水をいれふたをして約5分煮る。
③水が半分ほどになったら醤油を加え、さらに中弱火で10分煮る。少々煮汁が残るぐらいで火を止める。



約1週間保存可能。煮汁ごとご飯に混ぜれば、栗ご飯。根菜に煮含めて、和のおかずにも。お試しください。
「食欲の秋」という何気ないフレーズが放射能抜きに語れなくなった現実があります。調べてみました。

厚生労働省「食品中の放射性物質の検査結果」より
2013年産 栗の放射線量（HPで見られます）
県内 昭和村32、西郷村55、郡山市12
県外 日光市22、流山市31 ベクレル/キロ
※日本の食品基準値は1*あたり100ベクレルですが、ドイツでは子ども4ベクレル、大人8ベクレルです。

出来るだけ遠い産地のモノを選ぶ必要もでてきます。

編集後記

「報告と講演を聞かせていただき、市民・県民の立場で考え、一緒に困難と向き合ってくださいること、事実を伝えてくださることを知りました。信頼できる・・・そう思いました。この先、何年、何十年と支えてくださる方達がいることの安心感。」
報告会の数日後、診療所に届いたお手紙の1節です。信頼に応えるべく、みなさんと共に歩いていきたいと思ひます。(え)

ふくしま共同診療所 Newsletter

第3号 季刊-秋号-



診療時間：9：30-12：30/15：00-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科
〒960-8068
福島市太田町20-7 佐周ビル1階
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

ここから通信

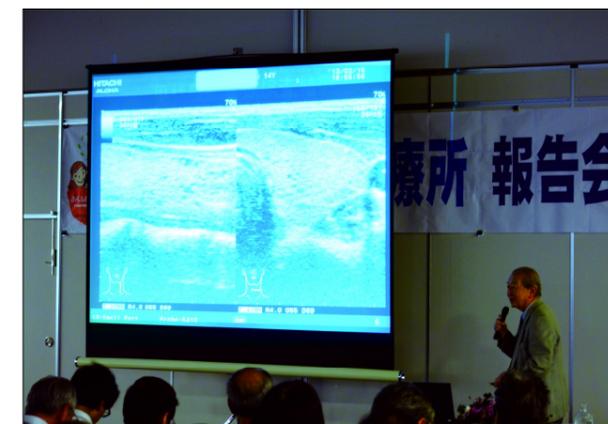
小児甲状腺検査 52%に異常

9月8日、ふくしま共同診療所報告会が福島市で行われ約160名の方が参加されました。昨年12月1日の開院から9ヶ月の診療報告、そして国会事故調査委員の崎山比早子先生の講演、最後に市民の方々との質疑応答を行いました。

松江院長報告

- 開院後9ヶ月で600人の患者さんが来られた。その9割以上が甲状腺を心配しているお子さん。
- 甲状腺全体が何らかに侵されているということ。まず放射線が原因と考えるのが常識。
- 組織が蜂の巣のような甲状腺は、何十年も検査していく必要があると思う。
- 県の超音波検査は、2~3分。診療所では、10分~15分かけて実施し画像を記録に残している。
- 県の検査結果における診断基準がおかしい。
 - ・「Aは異常がない、Bは疑わしい、Cはかなり強く疑わしい」しかし、AはA1とA2に分かれていて、A2は5mm以下の結節かまたは2cm以下のう胞がある場合。
 - ・私は超音波の専門家だが、こんないい加減な判定基準は他のガンにはない。今回、18例のガンのうち一番小さいのは5.2mm。だから5mm以下でのがんで見落とされている子どもがたぶん相当な人数いるのではないかと思う。

被ばくの問題は、隠そうとするのではなく、この現実を真正面から見すえ、向き合っていくなくてはなりません。子どもだけではなく大人の健康管理も絶対に必要です。



＜診療所の甲状腺エコー検査結果＞
18歳以下の検査人数252人
(12年12月~13年4月)

- ・異常なし 121例 (48%)
- ・有所見者 131例 (52%)

結節	3例
のう胞	121例
無数微小のう胞	43例

 (対象者の17%のう胞所見の36%)
- ・不均一7例

＜県民健康管理調査第二次検査結果＞
(8/20発表)

- ・甲状腺がんの疑いも含めた子ども44名

※1名は、手術後良性結節であったため、43名と報道されているものもあります

- ・手術を受けた子ども19名
- ・平均年齢(震災当時)6歳~18歳
- ・性別：男性18人、女性26人
- ・平均腫瘍径：5.2mm-34.1mm。(7/31現在)

県立医大の鈴木真一教授は、「がんの状態から2、3年以内にできたものではない」と述べ原発事故との関連に否定的な見解。また星北斗座長(県医師会常任理事)は会見で「現時点で、原発事故による放射線の影響とは考えにくい」と発言しました。